

大宰府政庁の模型

これは大宰府行政施設が、10 世紀というシルクロード貿易、および中国とアジア大陸との強い絆によって定められた時代に、どのような外見をしていたかを示す。中国の宮殿の一般的な特徴である構造の美しさとその左右対称性に、中国の影響が見られる。

建物はチャイニーズレッドとも言われる明るい朱色で塗られていた。その色は生と再生と関連があり、悪霊を追い払うと考えられていた。建物は五行思想（五相あるいは五要素間の相互関係に基づく概念）という中国の哲学理論と風水に従って建築された。主な行政大広間は、南向きに建てられ、陽の気の風水をもたらしした。そして四王寺山の麓に位置するため、自然防衛をもたらした。

大広間の屋根は、西洋における中世の大聖堂のガーゴイルと同様に悪霊を脅して追い払うために、鬼（“悪鬼”）瓦を使用した。展示されている鬼瓦は大宰府で発掘され、開いた口と突き出た眼は鬼の激怒した表情を際立たせる。大広間の床と階段に、花や植物の柄で飾られた四角と三角のタイルが使用された。

行政施設がかつて立っていた敷地は展示会場を出たすぐ外にある。今日では礎石のみが残っているが、そこはかつて強力な国際的な都市、大宰府にふさわしい広大で堂々とした施設であった。